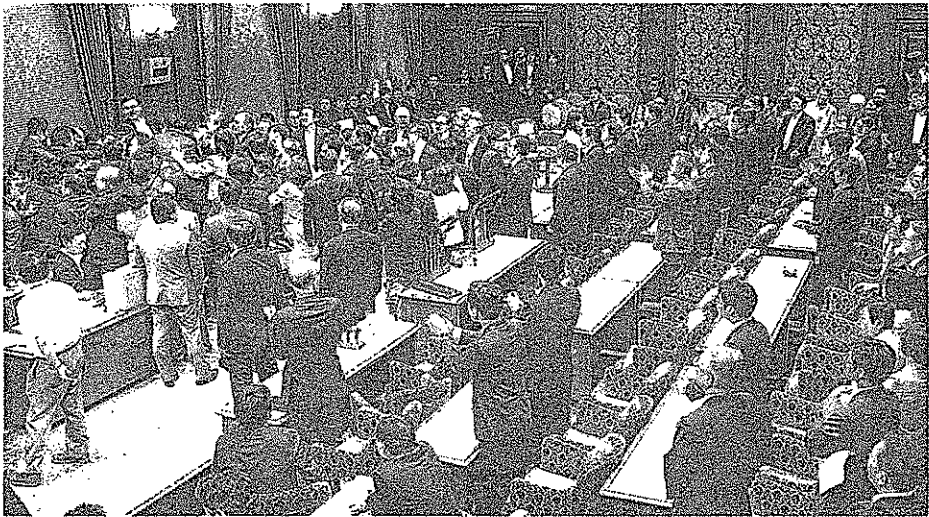


「肉弾戦」の強行採決

怒号、委員長もみくちちや

安保法案 参院委可決



安保関連法案が強行採決され、与党と一部野党の賛成多数で可決された参院特別委=17日午後、国会で

「民主主義の死だ。参院平和安全法制特別委員会が可決された十七日、委員会室では与野党議員が入り乱れ、攻防が激化した。鴻池清盛委員長の不信任動議が否決された直後の採決強行。「恥を知れ」。野党議員の怒号が響く中、与党席からはまぼろしの拍手が起きた。●面参照

午後四時半前、野党側が提出した不信任動議が否決され、鴻池委員長に続いて

を罵倒して多数の与野党議員が机上のマイクをめぐって一斉に駆け寄る。スクラムを組んで委員長を守ろうとする野党議員と、それを乗り越えようと身を乗り出す野党議員。「何をやっ

ていたんだ」「暴力はよせ。議員同士がつかみ合った。鴻池委員長は怒号が飛び交う人だかりの中心でもみくちちやとされ、賛成の起立を求める声も届かない。脇に陣取る自民党の佐藤正久・与野党議員が合図を送るべくを見せた後、与野党の議員が立ち上がった。大混乱の末の可決。戸惑う表情を浮かべた与野党議員

の拍手は、「やむを得ない」「認めない」との叫び声に引き寄せられた。涙を浮かべ抗議する野党議員もいた。安倍首相は混乱を避けるよう採決前に退室していた。夜の参院本会議。中川雅治議長運営委員長代理の解任決議案の討論でも野党席から「暴挙だ」と、激しいやじが飛んだ。決議案は否決され、議員らは疲れ切った

「許さない」県内から声



安保関連法案の廃案を訴え、氣勢を上げる参加者たち=17日午後6時42分、福岡市の中央大通りで(河野光吉撮影)

反対団体 横断幕掲げ訴え

福岡県東区(福岡市中央一丁目)で座り込みなどの反対行動を続けてきたストッパ安保法制福岡県民集会実行委員会。十七日午後六時から福岡市中央大通りの中央大通りに場所を移し、「戦争法案を絶対に許さない」と書かれた横断幕を掲げた。参加者は演説に真剣に耳を傾け、法案の廃案に向け「がんばろー」

と声をそろえた。委員会事務局の樋口正一さん(左)は「一党一議席論議をしていない可決は民主主義の否定」と語気を強めて声を上げ続け、廃案に持つてい

たいと話した。委員会事務局は県内の労働団体や一般市民などで構成。十四日から福岡県東区で実施してきた反対行動には、連日五十人ほどのメンバーが集結した。福岡県東区での集り込みは十八日までの予定。(玉田龍也)

県内の宗教者十人ずつの「武力に依らず平和を願う宗教者の会・福岡」事務局の藤原さん(左)は「あらゆる市にはこのような戦争への道を心づく危険な法案が提出され、数の力をもって強行採決されたことについて、大変残念に感じます。憲法を無視したこのような暴挙は、国の法を破る行為ではない」と

憤りを語った。宗教者の会では、安保法案に反対の意見を表明する機会を有する。今後は、二十七日に公開集会などを企画している。「法案が採決されても、私たちは活動を続ける。憲法を無視した暴挙に抗議し、学び合う機会を、これから続けていきたい」と話していた。

ママの会 「立ち上がる時期だ」

メンバーのヤング有希さん(左)は「福岡市には今立ち上がる時期だ。国民一人一人が立ち上がることを必要とされている時期を思っている。福岡でも若い世代が立ち上がってほしい」と話した。

国会前「正念場これから」

「九条を壊すな」「力ずくが」。安全保障関連法案が参院平和安全法制特別委員会可決された十七日、国会周辺には朝から多くの市民が集った。採決強行に憤りつつも、諦めの色はない。「正念場はこれからだ。廃案を求める訴えがやむごとはなかった。雨の国会前。夜には正門前の道に人があふれ、身動きしづらい状況に。主催者発表で約三万人が参加し、「戦争反対」「強行採決許さない」のコールが響いた。警察庁は正式発表していないが、警察関係者によると、約一万一千人が参加した。

この日、委員会採決の知らせが飛び込んだのは午後四時四十分すぎ。ええっ。一瞬の静まりの後、抗議の叫びが広がった。登壇した野党議員が「断じて許さない。これが正念場だ」と本会議での採決阻止を呼び掛ける「ぞった」の声があちこちから上がった。六人まで来たという千葉県市川市の立教大一年の男性(左)は「審議を見て、法律を必要とする前提事実がない。力で押し通され、怒りを感じると話した。

表情で議場を去った。十六日から続く国会の緊迫は十七日に入っても継続。午後一時からの鴻池委員長の不信任動議をめぐる特別委審議で、民主主義の山本太郎代表も「憲法を壊すな」と訴えた。特別委終了後、民主主義の運動代表代行は「国会の外でやっているデモの声

が聞えないのか」と憤った。一方、佐藤氏は採決の方法について「野党の抵抗により正常な形で議事運営は難しく、やむを得ない選択だった」と釈明した。「多数決がルール」

委員長席の周りでもみくちちやになった自民党の滝波宏文氏(福岡選挙区)は「審議を尽くせば最後は多数決で決めるのが民主主義のルール」と話した。